



上の山こけし



幸の弔いに馳せ参する人もあるうし、事業の不振や借金の言い訳けに飛び歩く御苦労なる。一方慰安旅行や見学視察の目的で、日常の仕事から解放され、今後の活動の鋭気を養い、浩然の氣を求める清遊を試みるグループもある。何れにせよ旅行している間は頭が休まり、環境が変り、体はひとりでに前進状態にあるので、過去現在未来について反省し別な角度で自己を見つめ考えを回らす何よりの機会と

◇旅の楽しさ

毎日をアツセクと働き、また単調な同じ仕事をしている者にとって旅はこよなく楽しいものである。汽車、飛行機、自動車何れの乗物を利用するにしてもそれぞれの味があり、旅客の顔ぶれをみても各種各様で想いも様々である。

中には肉親の病気見舞や、不幸の弔いに馳せ参する人もあるうし、事業の不振や借金の言い訳けに飛び歩く御苦労なる。一方慰安旅行や見学視察の目的で、日常の仕事から解放され、今後の活動の鋭気を養い、浩然の氣を求める清遊を試みるグループもある。何れにせよ旅行している間は頭が休まり、環境が変り、体はひとりでに前進状態にあるので、過去現在未来について反省し別な角度で自己を見つめ考えを回らす何よりの機会と

なるであろう。

◇あつけない飛行機

旅を楽しむ者にとって旅客機はあつけない存在である。乗客は一様にむずかしい顔あげるであろう。それにも増して不規則な動搖をしないのが良ろしい。従つて身体が疲れない。また晴れた日は眺めも格別であるし、高度をあげればいわゆる雲上人の気分も味わえるというものである。ここにおいて下界のもろもろを正に高いところから見下せる利点がある。

◇良くなつた寝台特急

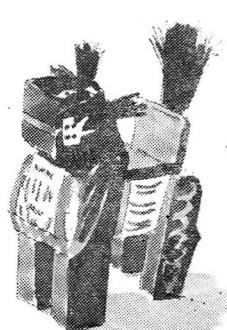
十月から東北本線に新設された寝台特急は既に東海道、山陽本線でおなじみの「あさかぜ」型であるが、乗心地は頗る快適である。停車、発車の際、ガタンガクンとなるべし、車輪の震動が消される仕掛けも著しい進歩である。お客様の行儀も比較的良好な列車ボーライもテキバキとしていた。(もとも古い寝台車から変わったところなのでゴキゲンであったかも知れない)洗面所には電気カミソリのコンセントがあり、新しい石鹼は自由に使って持ち去られることもなかつた。冷たい飲料水や紙コップも新鮮な感じである。

◇意外な津軽丸

国鉄最新鋭を誇る津軽丸に乗つたが、まことに不愉快な船であった。ディーゼル工

ノジンの響きは一等乗客の脳天に達し、客席の配置や食堂のとり方もまずい。更にボーライは乗客を監視、監督する丈で、さっぱりサービスというところまで行かない。客は一等に殺到し二等はガラ空きで遅く乗つた者は満足に坐ることもできない。
前景気が華々しかつただけに全く期待外れであった。

海底トンネルが出来なければ、青函航路の不快さは解消できないのであろうか。
前景気が華々しかつただけに全く期待外れであった。

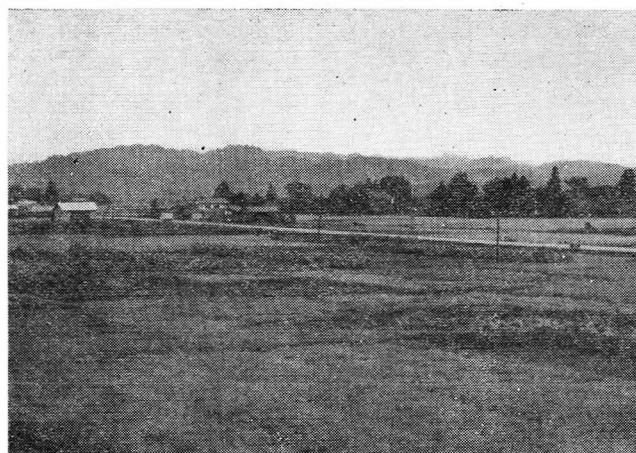


福島の三春駒

◇みちのくの水田

東北地方を通つた時は稻刈りの最中である。刈り取つた稲の乾燥法が地方によって皆違つてゐるのは面白いと思つた。これはそれぞれの専門の立場から研究されまた長年の経験から編み出されたものであろうから、總て尊重されねばなるまい。そしてその方法を他地方へ持つていつては不適当な場合が多いのである。従つて牧草の乾燥法についても画一的なものをとらずそれぞの地域に適したやり方が必要のような気がする。一方過去の伝統ばかりにとらわれる事も絶対良い事ではない。即ち乾燥剤による新しい技術、火力通風乾燥機を中心とする新型機械の導入など無視する事はできないであろう。それにも増して想うこと

は水田の排水が悪い事である。この事は既に二十年も前にその道の専門家によって指摘されているのであるが、日本の稻作は水田の灌水ばかりを考えて排水を疎かにしている。従つて湿田が多く、裏作の大いな陥路になつてゐる。かの有名な論文の姿を眼のあたりに眺め、心深く考えさせられるも



宮城県の稻刈、乾燥風景

変つて行く。中には目立つては台風二〇号で無惨にへし折られた採種用デントコーン（実は充分入つてた）の姿で痛々しかつた。関東地方の酪農では長程の飼料栽培は問題が残る。やはり放牧主が有利ではなかろうか。この反面、北関東山間部の果樹は巧みに台風をそらし、早いものは収穫を終り、リンゴも晩生を残し、地形を利用してか台風の被害は少ないようであつた。

◆ 東京の町

人間の構造は脳、神経、心臓、血管、血液、臓器、四肢などから成つてゐる。都會の構成も全くこれに似た複雑な、幾十幾百の異質のもの組み合せからできている。田舎の静かなところで生活をしている我々にとっては、日中の難咎もさることながら、以前は泊り慣れた代々木の宿であつたが、何年振りかで来てみると、夜がウルサくて眠られない。間断なくレールを軋ませる電車、絶えず疾走する車の響、時折、近く遠くに鳴き叫ぶ救急車、パトカ

の音までが騒々しい。

◆ 車窓からの関東畠地

関東地方の畠はいかにもセセコマしい。マンモス消費地大東京を背景にいろいろのことがあつた。みちのくの山野はもとより水田地帯もまだまだ飼料生産の場はたくさんあると感ぜられる。

人生もまたはるかな旅路である。そして今

らも困るのであらうか。労力の配分からであろうか。それにしても多い。ナンバン（佃煮の原料である）、ラッカセイ、サトイモ、陸稲、大豆、キウイ、ナス、白菜、レタス、サツマイモ、レンコン等々、一枚が十坪からせいぜい五坪程度であるから、見ている方で疲れてくるぐらい忙しく移り

塊に比喩されても良いであろう。ジャーナリストは東京の町や規模をスゲエ、スゲエと書き立て、東京の友人はどうだ變つただろう、驚いたかと返事を待つ。確かに驚ろきもし、感心もした。では田舎は複雑な機構になつてゐないであろうか。地方の田園もまた静かではあるが同じ脈博は打つてゐる。一見單調で変哲がないと、毎日の呼吸が忘れ勝ちになつていて大である。都会では人間一人一人単細胞が毛髪みたいなものである。その人が抜けても都會そのものはどうともしない。だが農業經營ではそうはない。一人抜けば稻刈りにしろ、搾乳にせよ忽ち困つてくる。都會の人間は流されまいと懸命である。農村では直接の優勝劣敗が見えないので、受け取る感じが緩慢であるが同じ立場にあることは変りない。従つて農業經營をするのが自分である以上、そこに一つの社會機構を

一方種子の面についても弊社自慢の育成種が一部生産不足で御迷惑をおかけいたしました。何れも筆舌に尽し得ぬ悲しみ、損失であります。改めて諸先生の徳を讃び、御冥福を祈り度いと存じます。

明年こそはと意氣込んでみても始まりまでも重ねてお詫び申し上げます。

明年こそはと意氣込んでみても始まりまでも重ねてお詫び申し上げます。

せんが、一同奉仕の精神に徹し、種苗、飼料の販売に誠実な努力を重ねて参りたいと念願いたしております。

どうか寒さにもめげず良いお年をお迎え下さいますようお祈り申し上げます。

(岡田記)

仙台の松川だるま

